

授業科目名	持続可能な社会	担当教員	栗田 匡相
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年第3クォーター		
講義内容	<p>「持続可能性」・「永続可能性」・「持続可能な社会」という言葉は、一般的に定着し何気なく使われているが、意味する内容は非常に奥深く、歴史ある大きな概念である。1970年代前半に世界の政治と経済が大きく転換するが、これと軌を一にして歴史上に現れる。以後、意味する内容や具体的な方策等が深められ、国際政治経済および地域社会を考える上での重要なキーワード、キーコンセプトとして今日に至っている。</p> <p>講義は、「持続可能な発展」理念、理念の実践過程・歴史的展開過程、理念に基づく現代社会や地域社会の見方、「持続可能な社会」のあり方、地域社会における理念の実現方法等について講じる。またこうした理念を実際の社会の中にどのように反映させ共生社会を構築していくのかという実践的な知についても簡易のフィールドワーク実習等を行い、経験的に学習する。</p>		
到達目標	<p>学生が、「持続可能な発展」理念を踏まえて、現代社会を俯瞰的に把握できるようにするとともに、地域課題を改善・解決することに大きな関心をもつようにするため、次の点を到達目標にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (基礎知識の獲得と応用) 日本と世界が直面している種々の課題を整理、理解し、それらを地域の実情に即して把握、考察、討議できるようにする。 2. (実践知としての学習) 豊岡でのフィールドワークを適宜実施し、座学と現実社会との橋渡しが出来る人材になる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「持続可能な発展」の理念と変遷 (1) 現代社会の課題 2. 「持続可能な発展」の理念と変遷 (2) 分析のための方法論 I 3. 「持続可能な発展」の理念と変遷 (3) 分析のための方法論 II 4. 「持続可能な発展」の理念と変遷 (4) 分析のための方法論 III 5. 「持続可能な社会」のデザイン (1) 自然環境保護を考える 6. 「持続可能な社会」のデザイン (2) 格差社会を考える 7. 「持続可能な社会」のデザイン (3) 共生社会を考える 8. 「持続可能な社会」のデザイン (4) マクロからミクロへ 9. 私が描く「持続可能な社会」(1) 持続可能な社会としての豊岡 I 10. 私が描く「持続可能な社会」(2) 持続可能な社会としての豊岡 II 11. 私が描く「持続可能な社会」(3) 学生プレゼンテーション I 12. 私が描く「持続可能な社会」(4) 学生プレゼンテーション II 		

事前・事後 学習	<p>(毎回の授業前に行うべき予習)</p> <p>☆各講義回で出される小課題に取り組み、関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習)</p> <p>☆授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。</p> <p>(その他)</p> <p>☆フィールドワークではインタビュー調査などが課されるので、真剣に取り組んでください。</p>
テキスト	特定のテキストは使用しない。
参考文献	参考書や資料等は適宜講義で提示する。
成績評価 の基準	<p>講義終了前の 10 分程度の「理解度試験」を適宜実施 (計 20 点)、期末にレポート提出 (40 点)、毎回の小課題 (計 20 点)、プレゼンテーション (20 点) で合計 100 点 (100 %)</p> <p>評価基準は次のとおり</p> <p>S 90 点以上 到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績</p> <p>A 80 点以上 90 点未満 到達目標を十分に達成できている優れた成績</p> <p>B 70 点以上 80 点未満 到達目標を達成できている成績</p> <p>C 60 点以上 70 点未満 到達目標を最低限達成できている成績</p> <p>D 60 点未満 不合格</p>
履修上の注意 履修要件	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。
実践的教育	該当しない。
備考欄	<p>面談の希望や問い合わせ等は、Mail でお知らせください。</p> <p>定員超過の場合、抽選により履修者を選定します。</p>